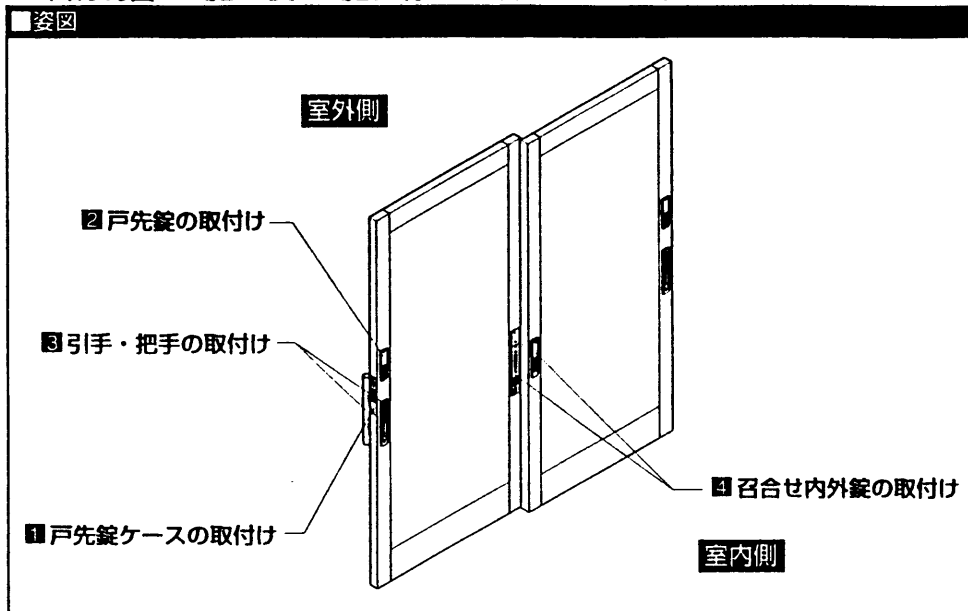




トステム株式会社

# 断熱玄関引戸PGシリーズ 錠 取付け説明書

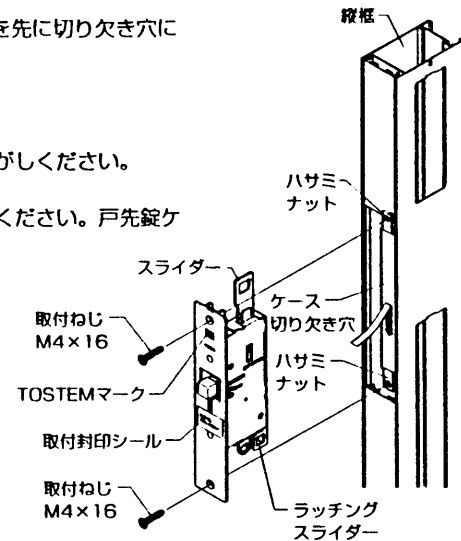
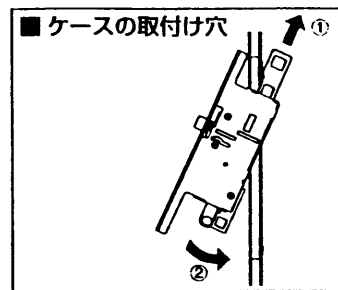
※本説明書は、施工後、お施主様にお渡しください。



## ■ 取付け順序

### ■ 戸先錠ケースの取付け

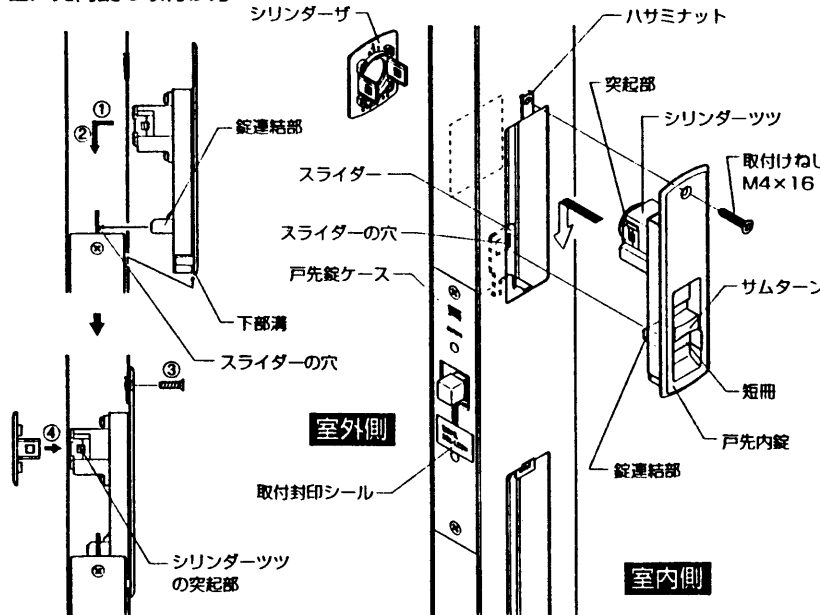
- ① 戸先錠ケースのTOSTEMマークを上にして、上部スライダー側を先に切り欠き穴に差し込みます。
  - ② 下側を切り欠きに差し込み差し込みます。
  - ③ 取付けねじ (M4×16) で固定します。
- ※ラッチなしの場合は、ラッチングスライダーはありません。
- ※取付封印シールは、戸先錠、引手 (把手) を取り付け後にお剥がしください。
- ※4枚建ての合掌部は戸先錠と同一品で取り付け方も同じです。
- ※戸先錠ケース取り付け後に、縦框を下にして障子を立てないでください。戸先錠ケースが破損するおそれがあります。



## ■ 戸先錠の取付け

- ※戸先錠ケースを先に取り付けてください。
- ① 戸先内錠の錠連結部を戸先錠ケースのスライダーの穴に差し込みます。
  - ② 下部溝がアルミ材にひっかかるまで下方にスライドします。
  - ③ 取付けねじ (M4×16 頭部色付き) で固定します。
  - ④ シリンダーザを「上」刻印を上にして戸先内錠のシリンダーツツの突起部にはめ込みます。
- ※上下逆に取り付けると破損のおそれがあります。
- ⑤ サムターン部に差し込んである短冊を破れない様にはずします。
- ※戸先錠ケースの取付封印シールは、戸先錠、引手 (把手) を取り付け後にお剥がしください。
- ※4枚建ての合掌部は戸先錠と同一品で取り付け方も同じです。但し、4枚建ての内障子の縦框室外側にはシリンダーザはありません。
- ※戸先内錠には、シリンダー付きとシリンダーなしがあります。外障子、内障子どちらの縦框にも取り付け可能です。
- ※シリンダーザには、シリンダー付用の穴があいたものとシリンダーなし用の穴があいていないものがあります。

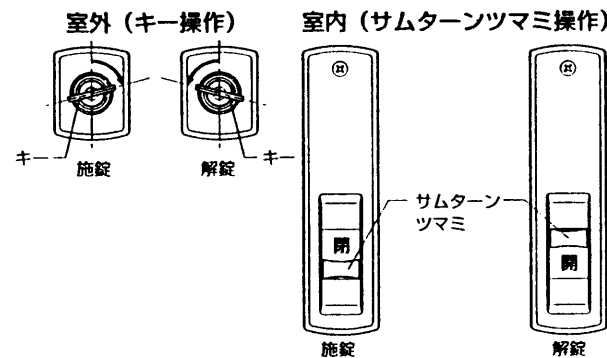
## ■ 戸先内錠の取付け方



## ■ 施錠操作方法

※本錠は、安全装置付きの為、障子が閉まった状態でないとサムターンの「開」「閉」操作はできません。

※本錠は調整が不要です。建て付け調整をするだけで、施錠操作ができます。



※本錠は調整不要の機構を採用しており、戸先のチリ (枠と障子のすきま) が大きくても施錠操作できます。

施錠後に一度障子を閉め方向に動かすと、最適チリの状態で止まります。

## ■ 引手・把手の取付け

- ※戸先錠ケースを先に取り付けてください。
- ※本説明書は室外側:バー把手、室内側:引手のラッチ付きの図で説明していますが、外:引手+内:引手、外:把手+内:把手のパターンも

## ■ 引手・把手の取付け方向

- 把手は必ずグリップ部が召合せ框側になる様に取り付けてください。
- 引手は、ラッチ付きの場合、必ず操作レバ



**引手・把手の取付け**

※戸先錠ケースの先に取付けてください。

※本説明書は室外側:バー把手、室内側:引手のラッチ付きの図で説明していますが、外:引手+内:引手、外:把手+内:把手のパターンもそれぞれのラッチなしも取付け方法は同じです。

①室外側把手の取付け柱が戸先錠ケースの穴(A)に挿入され、ジョイント部がラッチングスライダーの穴(B)に挿入される様に切り欠きに差し込みます。

②室内側引手をジョイント部がラッチングスライダーの穴(B)に挿入され、取付け柱先端のくぼみに室外側の取付け柱が入る様に切り欠きに差し込みます。

③取付けねじ (M4×35 頭部色付き) で固定します。

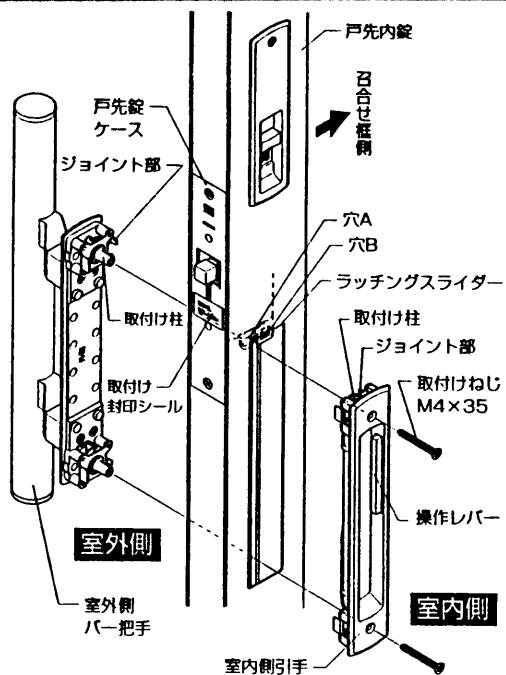
※必ず室内側からねじ止めてください。外側からはずされるおそれがあります。

※ラッチなしの場合、ジョイント部及びラッチングスライダーはありません。

※引手・把手を解除操作したまま取付けるとジョイント部がラッチングスライダーの穴(B)に入らずラッチ解除操作ができなくなります。

※戸先錠ケースの取付封印シールは戸先錠、引手(把手)を取付け後にお割がしてください。

※4枚建ての合掌部は2枚建ての戸先部と同一品で取付け方も同じです。但し、把手仕様の場合でも、内障子の縦框には引手を取付ける仕様となります。

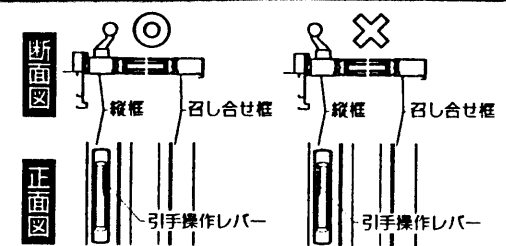


**引手・把手の取付け方向**

●把手は必ずグリップ部が召合せ框側になる様に取付けてください。

●引手は、ラッチ付きの場合、必ず操作レバーが召合せ框側になる様に取付けてください。(ラッチなしの引手は、左右の区別はありません)

※逆に取付けると手をはさんだり、ラッチ解除操作ができなくなったり、部品が破損するおそれがあります。



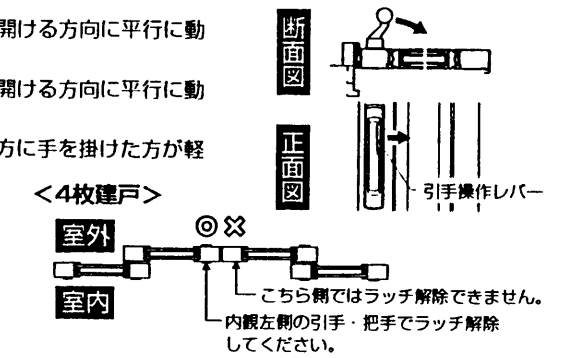
**操作方法 (ラッチ付きの場合)**

●可動把手の操作はグリップ部を障子を開ける方向に平行に動かすとラッチが解除します。

●可動引手の操作は操作レバーを障子を開ける方向に平行に動かすとラッチが解除します。

※操作レバーの下方に手を掛けるより上方に手を掛けた方が軽く解除できます。

※4枚建ての内観右側の合掌部にも可動引手・可動把手が付きませんがラッチ解除は、内観左側の合掌部の引手・把手でしかできません。



**Ⅳ 召合せ内外錠の取付け**

※必ず障子ストッパーを取り付ける前に召合せ錠を取り付けてください。障子のやり越しができなくなります。

**【召合せ外錠の取付け】**

①外障子の召合せ部に外錠本体を斜め下から差し込み、本体を起こします。(A部詳細参照)

※コノジナットは、框切り欠き内部に置いてください。

②取付けねじ(M4×16)で固定します。

③シリンダーを「上」刻印を上にして外錠本体のシリンダーツツの突起部にはめ込みます。

※上下逆に取付けると破損のおそれがあります。

**【召合せ内錠の取付け】**

①内障子の召合せ部に召合せツマミを挿入します。

②下部溝がアルミ型材に引っ掛かるまで下方にスライドします。(B部詳細参照)

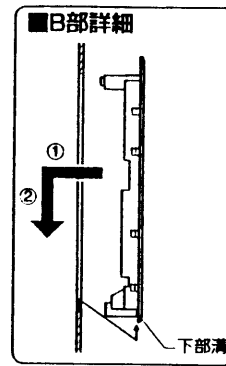
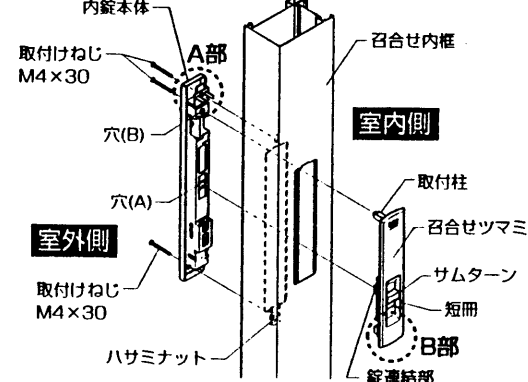
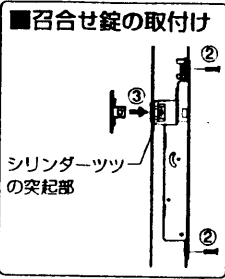
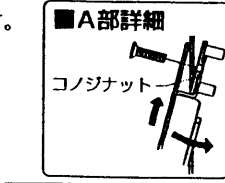
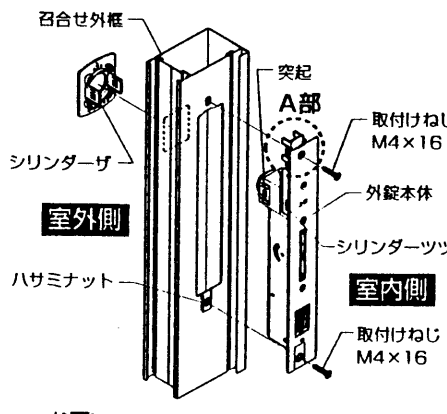
③内錠本体を斜め下から差し込み、本体を起こします。(A部詳細参照)

※コノジナットは、框切り欠き内部に置いてください。

※錠連結部が内錠本体の穴(A)に入る様に、また、召合せツマミの取付け柱先端が内錠本体の穴(B)に入る様にしてください。

④取付けねじ(M4×30)で固定します。

⑤サムターン部に差し込んである短冊を破れない様にはずします。



お願い  
※4枚建ての外錠本体には勝手(R/L)があります。障子にはR用、L用の切り欠きがあります。切り欠きにあった錠本体を取付けてください。(2枚建ての場合はR用が同梱されています。)

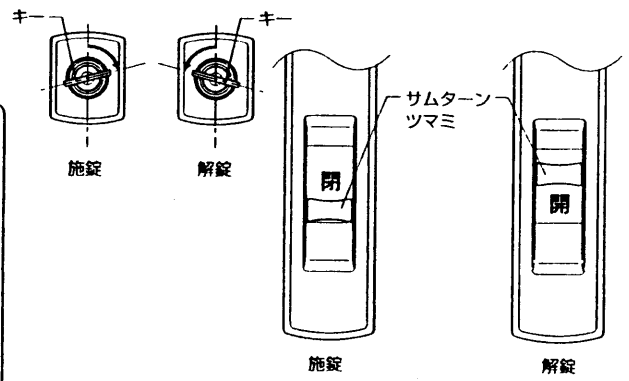
※本錠は調整が不要です。建て付け調整をするだけで、施錠解錠操作ができます。但し、建て付けの狂いが大きく、戸車調整により、外錠と内錠の高さ方向のズレが5mm以上になる場合は調整が必要です。(外錠・内錠ともに上方向に3mm調整できます。)

●外障子の戸車が上っている場合は、内錠の取付けねじをゆるめて錠本体を上へずらして再度ねじ止めます。内障子の戸車が上っている場合は、外錠を上方向に同様のやり方で調整します。

**■施錠操作方法**

※本錠は安全装置付の為、障子を開めないでサムターンの「開」「閉」操作はできません。

室外(キー操作) 室内(サムターンツマミ操作)



※本錠は調整不要の機構を採用しており、施錠後に障子を開ける操作をした場合、キーやサムターンツマミでの解錠操作が固くなる場合があります。その場合は、一度障子を開め方向に動かすと操作が軽くなります。

※施錠された状態で、障子の開け方向に強い力が加わると、鎌がずれることがあります。これは、ガタつきをおさえる機構を破壊させないためのものですので、異常ではありません。